



地域気候変動適応計画策定マニュアルについて

平成31年1~2月 気候変動適応広域協議会 環境省地球環境局 総務課気候変動適応室

地域気候変動適応計画策定マニュアルの目的

本マニュアルは、入手可能な情報を使って地域気候変動適応計画(以下、「地域適応計画」) 策定・変更する標準的な手順や参考となる情報・考え方を提供しています。

気候変動滴応法第十二条

都道府県及び市町村は、その区域における自然的経済的社会的状況に応じた気候 変動適応に関する施策の推進を図るため、単独で又は共同して、気候変動適応計画を勘案し、地域気候変動適応

計画(その区域における自然的経済的社会的状況に応じた気候変動適応に関する計画をいう。)を策定するよう努 めるものとする。

地域気候変動適応計画

計画策定の 目的·意義

- ・気候変動は長期的に影響を及ぼすため、**中長期的な視点で計画的に対策を進める必要**があります。
- ・多様な気候変動影響に適応するため、全体で整合のとれた取組を推進することが求められます。
- ・地域における**優先事項を明らかにし**適応を**効果的かつ効率的に推進**することも重要です。

策定の主体

- 都道府県及び市町村が、 それぞれ単独で策定
- ・複数の都道府県及び市 町村が共同で策定

対象範囲

- ・原則として策定を行う都道府県及び市町村の区域
- ・区域を超えた適応策が必要となる場合は、関係する他 の都道府県及び市町村や国等の関係者と十分に連 携・協力しながら策定する必要

形式

- ・独立した計画
- ・地球温暖化対策実行計画や環境基本 計画等関連する計画の一部に組み込む

位置づけ

・「適応法第12条に基づく地域気候変動適応計画 で **あることを計画自体に明記**するなど、それぞれの状況に 応じてしかるべき対応を実施

気候変動影響評価と見直し

- ・気候変動影響等に関する研究の最新知見を収集し、定期的に気候 変動影響評価を実施。
- ・気候変動影響評価に基づいて地域適応計画を見直し。

地域適応計画の構成とマニュアルの使い方

「手順編」の各STEPに沿って情報収集や整理。 情報を「ひな形編」に記載することで素案が作成できます。

地域気候変動適応計画策定マニュアル

手順編

地域適応計画策定の標準的な 手順に沿って、情報収集の方法 や記載内容等を解説したもの

ひな形編

手順編に沿って収集した情報を 記載することで、地域適応計画の 素案が作成できる

※地域適応計画の策定・変更は、 必ずしも本マニュアルの手順や手 法に沿って行わなければならないと いうものではありません。

地域におけるこれまでの適応の取 組や実施体制、科学的知見の収 集状況など、各地域の状況に合わ せて適宜参考としてください。 必要な情報の 収集・整理

収算

収集した情報を「情報整理シート(Excel)」に整理

※STEPについては、スライド3ページ以降参照のこと

整理した情報を ひな形に記載 <情報整理シート(一部抜粋)>

【STEP2】 これまで気候変動影響の整理							
分野	項目	2-1	2-2				
		これまでに生じてい る気候変動影響を整 理	2-1の原因となる 気象現象を整理				
			·				

地域適応計画の素案作成

<地域適応計画の記載事項例>

項目	地域適応計画に記載する内容		
計画における基本的な事項	・方針や目標 ・実施体制 ・計画期間、見直し時期 ・進捗確認の方法		
区域の特徴 ・地理的条件 ・社会経済状況 ・気候の特徴			
気候変動影響に関する情報	・これまでに生じた気象災害・顕在化している気候変動影響 ・将来の気候変動影響に関する予測・気候変動影響評価結果		
適応策に関する情報	・区域で優先的に取り組む施策・各分野の具体的な適応策		

地域適応計画策定/変更の流れ

地域適応計画策定(変更)の流れを、8つのSTEPに分けて説明しています。

: 主幹部局が中心となって実施

:主幹部局と関連部局が実施

各STEPの実施内容

実施時期

[STEP1]

地域気候変動適応計画 策定/変更に向けた準備

[STEP2]

これまでの気候変動影響の整理

[STEP3]

将来の気候変動影響の整理

[STEP4]

影響評価の実施

定期的に見直し

[STEP5]

既存施策の気候変動影響への対応力の整理

[STEP6]

適応策の検討

[STEP7]

適応策の取りまとめと 地域気候変動適応計画の策定

[STEP8]

地域気候変動適応計画の進捗状況の確認

○ 気候変動への適応の方針や目標の検討/見直し

- 地域適応計画の形式の検討/見直し
- 計画期間の設定/見直し
- 基礎情報(地理的条件、社会経済状況等)の整理/更新
- 区域の気候・気象(気温や降水量など)の特徴の整理/更新

これまでに、気候の変化や気象現象(高温、大雨等)によって生じたと考えられる影響の事例、および影響の原因となった気象現象を整理

将来想定される気候変動影響の情報を収集・整理

各分野の気候変動影響について評価を実施し、地方公共団体において優 先度の高い分野や項目を特定

地方公共団体における優先度の高い気候変動影響を対象に、それぞれに関連する既存施策の情報を収集し、将来の影響に対する施策の対応力を整理

STEP5で「新規または追加的な施策が必要」とされた気候変動影響に対し、具体的な適応策の情報を収集し、今後の対応を検討

STEP1~STEP6で整理した情報を取りまとめ、地域適応計画を策定

地域適応計画に取りまとめた適応策の実施状況を確認

1~2年 ごと

地域気候変動適応計画の策定/変更時

ステージの考え方

入手できる情報に応じて、いくつかのSTEPにおいては3つ程度のステージに分けて、 情報の具体的な収集方法を説明しています。



気候変動影響に関連する情報が、一定程度まとまった形式で全国的に公開されていることから、 比較的容易に情報を入手できる国の資料等を活用して計画を策定します。全国的に懸念されている 気候変動影響の中から、特に区域内で影響が大きいと思われるものを中心に記述していきます。



庁内の行政資料や計画など、区域内の気候変動影響について、**より詳細な既存情報の活用や 庁内の関係部局に情報を問い合わせる**ことで計画を策定します。区域内の特有の影響なども 整理し記述します。



区域内で特に懸念されている気候変動影響について、区域内を対象とした研究論文等の収集や、 地域の大学等に情報を問い合わせることで、区域内の産業や風土に即した計画を策定します。

まずは比較的容易に入手可能な情報を活用して地域適応計画を策定し、計画の変更時により詳細な情報を収集して内容の充実を図るなど、策定/変更時の状況に応じて参考として下さい。

<STEP 2 におけるステージごとの手順概要(例)>

STEP	ステージ 1	ステージ2	ステージ3
【STEP2】 これまでの気候変 動影響の整理	国の報告書や資料を 参考に、区域内で生じ ている影響を整理する。	庁内の行政資料や計画から区域内で生じている影響を整理する。または、庁内の関係部局及びその管轄下にある試験研究機関に問い合わせる。	大学や研究機関による気候変動影響に関する研究論文等を収集する。